

事業の評価に子ども・若者が参画 市民参加型事業評価のポイント

町田市子ども生活部児童青少年課 菊地 仁幸

2024年8月19日（月）



<実践事例の紹介>

2022年度町田市市民参加型事業評価

<紹介内容>

- 市民参加型事業評価の概要
- 事業選定
- 論点整理
- 改善プログラムの作成

＜事業の概要＞

1 目的

- （１）市民との行政課題や問題意識の共有
- （２）市民の声を行政経営・行政サービスの向上に活用

2 事業内容

評価人チームが、評価対象事業について、事業所管課の担当者との対話を通じて事業の問題や課題等を洗い出し、現状を評価する取り組みです。

評価後、市は課題の解決策を考え、事業の改善につなげます。

3 評価人チームの構成

評価人区分	総人数	Aチーム	Bチーム
コーディネーター	2人	1人	1人
有識者評価人	4人	2人	2人
市民評価人	4人	2人	2人
高校生評価人	6人	3人	3人
合計	16人	8人	8人

市民参加型事業評価の概要（２）

4

＜全体スケジュール＞

会議名称	日程	内容
第１回評価人チームミーティング	2022年 9月29日（木） 19：00～21：00	事業所管課からの事業説明
第２回評価人チームミーティング	2022年10月18日（火） 19：00～21：00	事業評価当日に向けた 論点整理①
第３回評価人チームミーティング	2022年10月28日（金） 19：00～21：00	事業評価当日に向けた 論点整理② 評価方法の説明



町田市市民参加型事業評価 当日	2022年11月13日（日） 10：00～16：50	事業評価当日
-----------------	----------------------------	--------



第４回評価人チームミーティング	2023年 1月（日にち未定） 19：00～21：00	事業所管課からの 改善プログラム（案）の説明
第５回評価人チームミーティング	2023年 2月（日にち未定） 19：00～21：00	改善プログラムの策定

市民参加型事業評価の概要（3）

5

＜事業選定の経過＞



市民参加型事業評価の概要（４）

6

＜評価対象事業の一覧＞

チーム	事業名（※）	キーワード	所管部署
Aチーム	住宅費	団地の再生	都市づくり部 住宅課
	資源化政策費	ごみの減量・分別	環境資源部 環境政策課
	災害対策事業	発災時の情報伝達・地域連携	防災安全部 防災課
Bチーム	介護予防・日常生活支援総合事業費 （介護保険事業会計）	高齢者の生きがい・健康づくり	いきいき生活部 高齢者福祉課
	市民総務・市民センター費	コミュニティ関連施設の活用による 学習環境の充実	市民部 市民総務課、 各市民センター
	児童青少年費	異年齢交流や子どもの居場所づくり	子ども生活部 児童青少年課

<仕組み①> 高校生評価人が集まるミーティングの開催

高校生評価人ミーティングでやること

2022年3月に市民を対象としたアンケートで、評価対象とする6つのテーマを選定しました。
高校生評価人は、2回のミーティングを通して、6つのテーマからさらに具体的な6事業（各テーマ1事業）を決定します！

テーマ1	テーマ2	テーマ3	テーマ4	テーマ5	テーマ6
道路や公園など暮らしやすいまちをつくる	健康な生活を支える	地域コミュニティ活動や安全な暮らしを支える	高齢者や障がい者などの生活を支える	子どもの教育環境や生涯を通じた学習機会をつくる	子育てしやすい環境をつくる

評価対象事業決定までの流れ

第1回高校生評価人
ミーティングに向けた
準備

次ページ以降を参考に、6つのテーマについて、「興味・関心があること」や「課題があると思うこと」を「事前ワークシート」にまとめて提出する。

第1回高校生評価人
ミーティング
(7月30日)

目的：評価対象事業候補を絞り込む

「事前ワークシート」をもとに、高校生評価人全員で、6つのテーマにおける「興味・関心があると思うこと」、「課題があると思うこと」について話し合い、1テーマにつき概ね3つの分類（事業候補）に絞り込む。

第2回高校生評価人
ミーティング
(8月22日)

目的：評価対象事業を決定する

第1回ミーティングで絞り込んだ分類から市が作成した資料をもとに、高校生評価人全員で、各テーマで評価したい事業について話し合い、投票により評価対象の6事業を決定する。

ポイント！

- ・高校生にしてほしいことを始めに伝える。

ポイント！

- ・高校生が委縮しないよう、対象事業を選ぶというミッションとともに、高校生だけで事前に集まる機会を確保
- ※募集の際には市内の高校を訪問
- ※謝礼もお支払い

ポイント！

- ・何をいつやるのか、プロセスとその内容をあらかじめ伝える。

<仕組み②> 高校生評価人ミーティングに向けた準備

STEP1 「各テーマの説明資料」を読んで、市の取り組みの概要を知る。

STEP2 6つのテーマそれぞれに関する、「興味・関心があること」や、「課題があると思うこと」について、市のホームページ等で調べたり保護者の方に聞いたりして、「事前ワークシート」にまとめ、メールで市に提出する。

STEP3 7月28日頃に市が送付する「事前ワークシートのまとめ（みんなの意見）」に目を通しておく。

わからないことがあったら、電話やメールでいつでも相談してください！



7月20日
(水) 締切！

ポイント！

- ・他人が決めたテーマ（スライドP5参照）ではあるものの、興味関心や課題感をもとに自分で調べ、まとめることで、「自分ゴト」として認識してもらう。

ポイント！

- ・実際にミーティングを行う前に、自分以外の意見についても共有
- ・高校生の不安解消のため、市の職員が事前準備を支援することを伝える。

＜仕組み③＞事前ワークシートの作成

市のホームページ等で調べるなどして、各テーマ1つ以上記入してください。

テーマ1 道路や公園など暮らしやすいまちをつくる

(1) 興味・関心があること、課題があると思うこと

- ・自分が普段生活している中で感じていることや、保護者の方や友達と話してみて気になったことなど
- ・複数ある場合は、「①●●について」「②△△について」などと記載

(2) その理由

- ・(1)に記入したことについて、どのような場面で興味を持ったか、なぜそう思ったかなど

(3) どうしたらより良くなるか

- ・（意見があれば）どのように改善すればより良くなると思うか
- ・他の自治体や民間企業などの取り組みを調べて比較してみる
例：●●市で取り組んでいる△△のような取り組みをやってほしい。

(4) 参考にしたもの

- ・調べた際に使用したホームページのURLや検索した日時、
広報紙の発行日、本のタイトルなど

ポイント！

- ・「興味関心、課題があると思うこと」から「その理由」、「改善案」、そして「根拠データ」と深掘りし、イメージを具体的な意見として整理するワークシートを作成

<仕組み④> 高校生評価人ミーティングの進行

今日、皆さんと一緒にやりたい3つのこと

- 1 お互いに顔と名前を覚えて、仲良くなる
- 2 「町田市役所って、どんなことやってるの？」
ということ、より知っていただく
- 3 今年の「事業評価」の場で、
どんな事業について考えるのか、話し合う

話し合いの時のポイント

- 1 難しく考えすぎない
「自分が興味のあることは何かな？」
「自分たち、家族、友人にとって、
大事だと思うことは何かな？」
- 2 他の人の意見を否定しない
- 3 キーワードで考えてみる

ポイント！

- ・高校生だけで集まり、
アイスブレイク
- ・まずは、高校生同士が
仲良くなることが大事
- ・事前準備の成果の確認は最後

ポイント！

- ・意見が言いやすくなるよう、
ハードルを下げる文言を入れる。
- ・まとまった意見でなくとも、
各自の事前準備の状況に合わせて
発表できるよう配慮

<仕組み⑤> 高校生評価人ミーティングの意見集約

事前ワークシートのコメント

①興味・関心があること、課題があると思うこと
②その理由
③どうしたらよくなるか

Aさん

注）Cは、テーマ3から移動

A ①団地の再生
②団地の利用者が高齢化している中で、階段の乗り降りが苦痛に感じる人がいるのではないかと考えたから。
③エレベーター導入の検討や、階段の手すりの補強

B ①団地商店街の再生
②団地自体は修繕や塗装等で整えられてきたものの、団地周辺はまだ高齢者が多く活気がない印象がある。特に山崎団地では、新しく桜美林大学のキャンパスができ若者が集まる環境にあるので商店街を再び栄えさせるには良い機会だと思う。
③地元の大学生・高校生と連携した取り組み/イベント（夏祭りなど）を通じて周辺住民との関わりを増やしていく/キッチンカーや移動販売等の受け入れ

C ①自転車専用通行帯について
②毎日自転車通学をしているなかで、駅周辺は自転車専用レーンが明確であるのに対し、駅から離れると大きな道路にも関わらず車道と自転車レーンの境目が曖昧で走行しづらく感じるから。
③自転車レーンと車道の境目に等間隔にポールなどを置いて双方の範囲を明確にする。

キーワード A・B 団地の再生 C 自転車走行環境の整備

Bさん

①投票所について
②投票所が家から遠く車でないと、かなり時間がかかる。母や祖母は車の免許を持っていないので父が仕事なのでいないと時間がかかるし投票に行かなくなるので。
③自宅や外出先からのスマホやPCなどを使った投票

キーワード 投票所のアクセス向上 投票のデジタル化

Cさん

注）Bは、テーマ2から移動

A ①団地周辺が夜暗くて怖いことについて
②街灯が少ない
③街灯を増やす

B ①夏の道路が暑いことについて
②道路沿いに木が少なく、日影がないから
③樹木を増やす

キーワード A 街路灯の整備 B 街路樹の整備

ポイント！

- ・各自の発表内容が確認できるよう、高校生一人ひとりの意見が見える化

ポイント！

- ・市の事業との紐づけを行うため、高校生の意見を「キーワード」として集約



ポイント！

- ・「キーワード」は全部で45
- ・高校生の話し合いで、45の「キーワード」を20に絞る

＜仕組み⑥＞キーワードと事業の紐づけ

みんなの意見	キーワード
○高校生の自習スペースと一人で過ごす子どものスペースを公共施設等の中の同じエリアに作り、居場所としたいのではないかな。 ○高校生が子どもの面影を見るなど、年齢にかかわらず子ども同士で交流できれば、将来について考えるきっかけになるのではないかな。	6-3 子どもの居場所 (多世代交流)

事業名	児童青少年費		
部署名	子ども生活部 児童青少年課		
事業の目的	児童の健全な育成と子育て支援		
市の主な取り組みの概要			
○子どもセンター5館の管理運営 ・対象者：0歳から18歳までの子どもとその保護者 ・開館時間：10時～21時（一部の館は18時まで） ○子どもクラブ6館の管理運営 ・対象者：0歳から18歳までの子どもとその保護者 ・開館時間：10時～18時 ○冒険あそび場の管理運営 ・市内の公園内に、子どもが自由に遊べる場所を設置 ・週4日以上開催している常設型（4か所）、月に1回～5回開催している定期開催型（3団体が5か所で実施）に対する補助 ○学童保育クラブ42か所の管理運営 ・対象者：共働き等で昼間に家庭に保護者がいない小学校1年生から6年生までの児童 ・開館時間：8時30分～18時（夏季休業中は一部異なる） ○放課後子ども教室（まちとも）の実施 ・42校の小学校の校庭や空き教室などを使って、放課後子どもが自由に遊んだり、様々な体験ができる場を提供			
 子どもセンター「ばあん」			
 冒険遊び場			
取り組みの成果			
成果指標	2018年度	2019年度	2020年度
子どもセンター、子どもクラブ利用者数（人）	504,070	467,626	321,786
まちとも参加児童延べ人数（人）	274,394	324,596	229,404
学童保育クラブ入会児童数（人）	3,667	3,729	3,756

ポイント！

- ・20の「キーワード」全てについて、職員が市の事業と紐づけし、以下の項目をまとめた資料を作成

- ア 事業名
- イ 所管部署
- ウ 取り組みの概要
- エ 取り組みの成果

ポイント！

- ・左記の資料を基に、改めて高校生が話し合い、6事業を選定

<仕組み⑦> 大人が加わるミーティングへの引継ぎ

事業名 児童青少年費	
高校生の意見	7月30日 第1回高校生評価人ミーティング
	・まちとを小学生の頃使っていたが、居場所としてだけでなく、勉強を教えてもらえるなど、とても充実していた。中学校でもこの取り組みが広まればいいと思う。 ・異なる学年との交流の機会があれば、将来についても考える機会になるのではないかなと思う。 ・高校生の自習スペースと一人で過ごす子どもが居ることができるスペースを公共施設等の中の同じエリアに作り、居場所としたらいいのではないかな。 ・子どもの居場所に関する複数のサービスや利用方法の比較の資料を作成し、わかりやすく周知すれば、もっと利用者が増えるのではないかな。
	8月22日 第2回高校生評価人ミーティング
高校生の意見から想定される論点	・様々な種類の子ども関連の施設があるが、これらの施設は町田市内にバランスよく配置されているのかわからない。徒歩圏内で行けるほうが子どもにとっては通いやすく、特に子どもの多い南町田に多く配置しておいた方がよいのではないかな。 ・子どもセンターの利用ルールが統一されておらず、どの施設でも使える共通カードがあるとよいと思う。 ・まちとなどでは、子どもが親に伝えずに行っているケースがある。利用時間などを親が把握できるようなシステムがあればよいと思う。

ポイント！

- ・高校生に加え、公募市民、有識者で構成する「評価人チーム」に、これまで話し合っまとめた高校生の意見と、選定した事業を説明する資料を作成

ポイント！

- ・高校生の意見が事業の評価につなげることができるよう、市の職員が、高校生の意見から想定される論点を参考情報として提示

<仕組み⑧> 評価人ミーティングにおける意見集約

B-3 児童青少年費

論点①		子どもみんなが利用しやすい雰囲気づくりについて (施設や諸室の利用方法に関する情報発信、異年齢交流等)
【参考】 評価人からの意見	A評価人	子どもの居場所として様々な施設があるが、施設ごとの違いや、サービスの違いが分かりにくい。各施設・サービスの特徴や利点を有効に発信できれば、ひいてはニーズに合わせて柔軟な利用が可能なのではないか。
	B評価人	自分が子供のころは学童しかなかったため、多様な施設のサービスについての情報がどこで知ることができるかわからない。
	C評価人	子どもに対して情報発信するということであれば、TiktokやLINEのタイムラインにイベントの情報などを出すなどすれば、情報が流れていくため、自然と目に入り、周知方法としては効果的だと思う。
	D評価人	子どもセンターについて、利用カードは共通だが使う部屋によっては施設ごとに講習が必要になる等利用手続きが多く面倒に感じる。
	E評価人	施設の利用登録や研修については、1回受講すれば説明時間を短縮するなど可能ではないか検討すべき。
	F評価人	子どもがどこにいるかを保護者が把握するために、子どもの居場所における情報連携をしていくべきである。
	G評価人	冒険遊び場は、だれでも利用することができ、ふらっと立ち寄ったところで異なる年齢の子どもと交流できた記憶があり、とてもいい経験だったため、事業費を縮小するかどうかという視点ではなく、このような気軽に立ち寄れる場所を増やすという観点で考えてほしい。

ポイント！

- ・各自の発言内容が確認できるよう、意見を見える化
- ・評価人の意見をカテゴライズし、意見を踏まえたチームとしての論点に集約

＜仕組み⑨＞事業説明資料の作成

事業名	児童青少年費		
キーワード	子どもの居場所づくりや異年齢交流		
部名	子ども生活部	課名	児童青少年課
目的	青少年の健全育成と居場所の確保		
概要	児童青少年費の概要		
	◆子どもの居場所づくりに関すること・・・① ・子どもが学びや遊びを通して成長できる環境を整えるため、居場所づくりを進めています。 ◆子どもセンター・子どもクラブの運営管理及び各種催しに関すること・・・② ・18歳以下の児童に健全な遊びの場を提供し、遊び（運動を主にする）を通じての体力増進を図ることを目的として、子どもセンターや子どもクラブの運営や子どもたちが主体となって取り組むことができる事業の実施に取り組んでいます。 ◆放課後子ども教室事業「まちとも」に関すること・・・③ ・学校の図書室、ランチルームといった余裕教室や校庭を活用し、学習活動や体験活動などを行っています。 ◆夏休み遊び場に関すること・・・④ ・公園等の一部を使って、子どもの遊び場を提供しています。		
概要	◆子どもの夢推進に関すること ・次代を担う子どもたちが「まちづくり」に夢みできる仕組みをつくる取り組みです。 ・夢推進にあたっては、「子どもの権利条約」をもとに、日本ユニセフ協会や関係自治体と共に子どもにやさしいまちづくり事業（ユニセフCFC1）に、取り組んでいます。 ◆学童保育クラブの入会、退会、運営及び運営支援に関すること ・小学校の敷地内または近接地等に設置した学童保育クラブにおいて、共働き等で昼間家庭に保護者がいない児童を預かり、安全・安心な生活の場を提供して健全な育成を図ります。 ◆青少年の健全育成に関すること ・地域の実情に応じて活動する青少年健全育成地区委員会及び青少年委員を支援します。 ・子ども達の心身の健康を増進するため、恵まれた自然環境の中で遊ぶことができる「ひなた村」を運営しています。 ・蒸気機関車D51を展示し、直接触れ合うことを通じて、その歴史的意義を学び、情懷豊かな青少年の育成を目指します。 ・子どもが助けを求めることができる緊急避難所として、「子ども110番の家」を設置しています。		
	～ 36 ～ ンや機関のほか、愛称について意見を聞きました。		

ポイント！

- ・事業の説明を各所管課が実施することで、各評価人は資料の不明点等をその場で確認することができる。
- ・資料の不明点があった場合や、情報の追加要望があった場合には、説明資料を修正追加していく。

※児童青少年費について、当初はA4用紙1枚程度の内容が、本番はA4用紙15枚まで増加

<仕組み⑩>意見の反映結果がわかる資料の作成

児童青少年費に関する改善プログラム（概要）

部課名		評価人チームの評価結果		
目的	青少年の健全育成と居場所の確保	総合評価	一部改善すべき	改善すべき項目
キーワード	子どもの居場所づくりや異年齢交流			
キーワードに関する取り組み概要	・子どもが学びや遊びを通して成長できる環境を整えるため、子どもセンター、子どもクラブ、放課後子ども教室「まちとも」、冒険遊び場といった居場所の整備を進める。 ・18歳以下の児童に健全な遊びを提供し、遊び（運動を主にする）を通じての体力増進を図ることを目的として施設運営・事業実施に取り組む。 ・学校の図書室、ランチルームといった余裕教室や校庭を活用し、学習活動や体験活動などを行う。 ・公園等の一部を使って、子どもの遊び場を提供する。	総合意見		・民間企業等との連携により、より多くの子どもに、気軽に「子どもの居場所」を使ってもらえるような仕組みづくりや、異年齢交流の取り組みをより積極的に進めてほしい。 ・「子どもの居場所」について、目指す姿と目標を明確にするとともに、施設ごとの特徴や利用対象者に関する情報を整理したうえで、子どもだけでなく、保護者や、今後親になる世代に対しても効果的に情報発信してほしい。

評価人チームの主な意見と事業所官課の改善に向けた主な取り組み

【議論のポイント1】 子どもみんなが利用しやすい雰囲気づくりについて	【議論のポイント2】 子どもの居場所の今後の展開について
子どもセンターが、これまで以上に利用しやすくなるように、子どもセンターごとでつくる必要があった入館受付用の利用カードを共通化します。 また、初めて利用する方向けに、子どもセンターの利用方法のガイダンスを新たに実施します。	子どもの居場所に関する情報を、伝える相手ごとに媒体を変えるなどして、もっとわかりやすく周知してほしい。 また、より多くの子どもが、子どもの居場所を利用できるよう、目指すべき方向性や目標等について改めて検討してほしい。

(P.2-3参照)

(P.4-5参照)

ポイント！

- ・改善プログラムの公表に際し、事業の概要と評価結果の全体像がわかる資料構成
- ・文字量を少なくするなど、読み手に配慮

ポイント！

- ・評価人の意見受け、どのような改善を行うかを見える化
- ・改善策をまとめるプロセスにも所管部署と評価人との対話を実施

2024年度の開催予定

17

開催日時:2024年11月10日(日)13時～17時25分

開催場所:町田市市庁舎2階・3階

評価対象事業名	トピックス
広報費	シティプロモーション
市民協働推進費・地域活動団体支援事業	地域コミュニティの課題解決と参加促進
障がい者福祉費	障がいへの理解促進
保健予防費	食育の推進
都市公園事業	公園の維持管理・利用促進
生涯学習センター費・学校施設開放事業	学校開放(子どもの居場所の確保)

※事業評価当日はライブ配信も行います。

詳細とライブ配信の視聴は、以下のURLからご確認ください！

[2024年度町田市市民参加型事業評価について\(2024年11月10日開催予定\)/町田市ホームページ \(city.machida.tokyo.jp\)](https://city.machida.tokyo.jp)